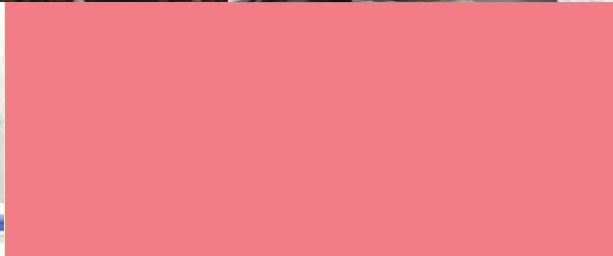
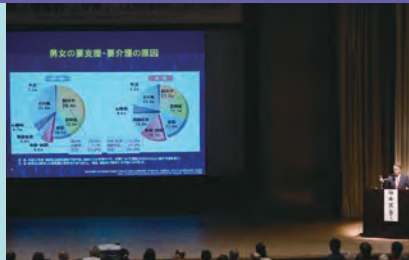


公益事業レポート 2019

遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞 授賞



「すべての人びとのいのちと環境のために」



すべての人びとのいのちと環境のために

当財団は、2013（平成25）年4月1日に一般財団法人東京顕微鏡院に移行しました。これまで財団法人東京顕微鏡院（旧財団）が行ってきた諸事業を引き継ぐとともに公益目的支出計画に則って公益事業を実施し、これにより「健康な命」と、それを支える「生活環境衛生」の維持・向上・増進を目指し、もって社会福祉に貢献することを目的としています。

新制度下において、一般財団法人に移行した法人は、これまで法人内部に留保した財産（公益目的財産）を、自ら定めた公益目的支出計画に基づき、本来の目的である公益目的に毎年一定額を使用することが義務付けられています。

令和の改元を迎えて

平成から令和への改元が行われた令和元（2019）年度は、新たな時代への期待感とともに、公益目的事業費として40,000千円を支出する計画でとり進めました。

当財団は今年度も順調に業務を展開し、こころとからだの元気プラザの経営状況も、営業活動による新規顧客獲得、現場スタッフの努力により、堅調に推移しました。

世界の政治、経済は安閑とした情勢ではありませんが、どのような状況においても、食と環境、心身の健康という両法人の事業は変わらず重要であり、引き続きみなさまのニーズにマッチした競争力のあるサービスの提供を目指していきます。

12年目を迎えた遠山椿吉賞

令和元（2019）年度の遠山椿吉賞は、健康予防医療賞としては6回目となります。また、40歳以下（応募年の4月1日現在）の応募者を対象とした「遠山椿吉記念 山田和江賞」は、予防医療分野の第3回を顕彰する運びとなり、多くの若き研究者から選考されました。

本賞は、HPVワクチンの本邦における有効性を初めて明確に示し、子宮頸がん対策の重要な基礎資料となり、女性活躍社会の実現や少子化にもつながる極めて重要な研究であるとして、学術的、社会的意義の大きさに対し顕彰を行いました。

また、山田和江賞は、全国データを用いて、日本の未就園の要因を明らかにした初めての研究であり、児童虐待防止対策、幼児教育・保育の無償化政策にも貢献が大きく、今後の研究の発展に期

待し、顕彰いたしました。

遠山椿吉賞は、選考委員の先生方の本賞の主旨に対する真摯な思いと厳正なる審査により、公衆衛生と予防医療にまい進する研究者に光をあてる顕彰制度として、わが国に根付きつつあることを感じております。改めて当財団の創業者、遠山椿吉博士に心からの感謝を捧げたいと思います。

健やかなところとからだのために

2018（平成30）年度からは、長寿社会の大きな問題である認知症を取り上げたセミナーシリーズを3年計画で開催。時代の要請を捉え、先駆的視点から、セミナーの企画開催に努めております。

次世代の育成としては、当財団豊海研究所にて、職員が講師を務める「夏休みこども研究者体験セミナー」等を実施、継続しております。

困難な時代へのチャレンジ

当財団は、2021（令和3）年4月1日に130周年の節目を迎えますが、改めて博士の創業精神に立ち返り、将来につなげ維持発展させる契機と

したいと考ておりました折、突然年初より発生した新型コロナウイルスは我々に重大な脅威をもたらし、医療、検査機関である両法人にとっても、今何ができるかは最大の関心事となりました。PCR検査が一番の近道ではありますが、実施に当たっては種々の困難もあり、試行錯誤しながら「健全な生活環境」を追求する東京顕微鏡院と、「健康なところ」と「健康なからだ」を追求するところとからだの元氣プラザ両法人の、今後の課題として取り組んでまいります。

2020（令和2）年6月

一般財団法人東京顕微鏡院
医療法人社団ところとからだの元氣プラザ



理事長

山田 匡 通

学術振興 (遠山椿吉賞)

すべての人びとのいのちと環境のために

2008 (平成20) 年度、当財団創業者、医学博士遠山椿吉の生誕150年、没後80年を記念して創設した、公衆衛生と予防医療の分野における研究者を対象とした顕彰制度です。「遠山椿吉記念 食と環境の科学賞」と「遠山椿吉記念 健康予防医療賞」を設け、隔年で選考顕彰します。授賞式では、賞状、記念品、副賞100万円を授与し、記念講演およびレセプションを開催しています。2015 (平成27) 年度から、若い研究者を支援する「山田和江賞」も、新たに加わりました。



遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞

令和元年度は、将来の予防医療のテーマに先見的に着手したものを重点課題としました。平成27年度から設けられた「山田和江賞」は、40歳以下(応募年の4月1日現在)の応募者に対し、その優秀な研究成果を顕彰するとともに、研究のさらなる発展を奨励する目的で、毎年1名に賞状、記念品および副賞50万円を贈呈し、顕彰するものです。故山田和江名誉理事長・医師の、50余年にわたるご貢献を記念して創設されました。

本賞は、地道に社会への貢献を追求する研究者を顕彰する賞と位置づけています。

遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞



上田 豊 (うへだ ゆたか) 氏

大阪大学大学院医学系研究科
産科学婦人科学 講師

「本邦における子宮頸がん動向調査と HPVワクチン接種の効果の解析」

副賞 100万円

遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞 山田和江賞



可知 悠子 (かち ゆうこ) 氏

北里大学医学部公衆衛生学
講師

「保育園・幼稚園に通っていない子どもの 社会・経済・健康面の特徴」

副賞 50万円

選考の過程

2019 (平成31) 年3月から学会等546団体およびマスメディア68媒体に資料を送付し、日本全国の大学関連学部学科879ヶ所に応募案内を送り、6月末日には過去最多の37件のご応募をいただきました。

選考プロセスは、一次審査・選考委員会という二つのステップで進めました。一次審査では、各選考委員に37件すべての応募論文に目を通していただき、五つの評価軸(①公衆衛生への貢献度、②公衆衛生向上を図る創造性、③予防医療の実践、④これからの人材育成、⑤推薦したいテーマと思うか)で五段階評価を付けていただきました。評価票の集計資料は各委員に事前に読んでいただき、選考委員会では本賞の趣旨と今年度の重点課題を確認し、十分に討議を重ねて授賞候補者の選出に至りました。

この選考委員会の結論は、当法人・医療法人合同の経営会議にて選考委員長よりご報告いただき、お二方の授賞が決定しました。



- 3月「遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞」広報ホームページ掲載
- 4月 公募開始
- 6月末日 締め切り (7月～9月 選考プロセス)
- 9月 選考委員会
- 10月 経営会議で決定
- 2月 授賞式・記念講演会 レセプション

37件 応募

遠山椿吉賞 選考
本賞・山田和江賞
推薦



創業者 遠山 椿吉 (とおやま ちんきち)

1857(安政4)年、山形県生まれ。東京大学医学部において別課医学を修めた後、山形県医学校長心得などを歴任。1888(明治21)年、東京医科大学撰科に入学し、衛生学および細菌学を研究。1890(明治23)年1月、帝国医科大学国家医学科に入学、同年4月卒業証書を授与される。1891(明治24)年、東京顕微鏡院の前身である東京顕微鏡検査所を創立。かたわら東京慈恵医院医学校(東京慈恵会医科大学の前身)講師、東京市衛生試験所長などの職を兼ねる。特筆すべき業績は、東京顕微鏡学会の創立、ペスト菌の研究、脚気の治療方法の研究、東京の水質管理を担い、水道の衛生管理に尽力、また保健部を新設し、予防医療を展開するなど多岐にわたる。機関紙『顕微鏡』『東京顕微鏡学会雑誌』を主宰し、医事衛生に関する数多くの著書や短歌を残し、華道、庭園学などについても著述している。亡くなる1年前にそれまでの人生を振り返り、思想哲学をまとめ「人生の意義と道徳の淵源」を上梓した。1927(昭和2)年、東京顕微鏡院を財団法人とし、初代院長に就任。1928(昭和3)年10月1日遠逝。享年71。

2月4日 遠山椿吉賞授賞式

「遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞」の授賞式・記念講演会・レセプションは、2020(令和2)年2月4日(火)にホテルメトロポリタンエドモント(東京・飯田橋)にて開催されました。授賞式には、選考委員の先生方を始め、研究者、報道関係者ほか当法人関係者など、100名近い参加者が祝福に集まりました。



祝辞を述べる山田匡通理事長

山田匡通理事長は、受賞者お二人を祝福し、遠山椿吉博士の業績と先見性に触れ、本賞の重要性が高まっていくことへの期待を寄せました。

上田氏の研究については、HPVワクチンの本邦における有効性を初めて明確に示され、子宮頸がん対策の重要な基礎資料となり、女性活躍社会の実現や少子化にもつながる極めて重要な研究であり、大変有意義であると述べ、深い敬意を示しました。

可知氏の研究については、全国データを用いて、日本の未就園の要因を明らかにした初めての研究であり、児童虐待防止対策、幼児教育・保育の無償化政策にも大きく貢献したことが高く評価されたものと述べ、今後の研究成果への期待を寄せました。

またこの賞を機会に上田先生、可知先生のますますの活躍が期待され、遠山椿吉博士の公衆衛生、予防医療で社会に貢献するという強い意識を受け継ぎ、本賞が発展していくことを祈念するとともに、門脇先生を始めとする選考委員の先生方の厳正かつハイレベルな審査が非常に賞の価値を高めていることへの感謝の意を述べました。



山田匡通理事長より上田豊氏に遠山椿吉賞を授与



可知悠子氏に遠山椿吉記念 山田和江賞を授与

■受賞者あいさつ

遠山椿吉賞 上田 豊氏

本日は栄えある遠山椿吉賞を授与いただきまして、誠にありがとうございます。

HPVワクチンについては、多くの方に理解をいただきたい、どうすれば理解いただけるのか、何とか科学的なデータを出したいと、いつもその点に留意してまいりました。その点を今回評価いただいたことは大変ありがたく思っております。ご指導いただきました先生方、ご協力くださった皆さまに本当に感謝を申し上げたいと思います。

HPVワクチンは、まだ全くの道半ばどころか、スタートラインに戻った気すらしております。この賞を励みに頑張ってまいりたいと思いますので、引き続き、どうぞご指導いただきますよう、よろしく願い申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

遠山椿吉記念 山田和江賞 可知 悠子氏

私が大学の教員になってから10年目の節目で、この賞をいただきとても励みになります。今回の研究は、息子の育児がヒントになっています。育児と仕事の両立は容易ではありませんが、育児から学べることで、得られるヒントはとても大きいと感じています。

2016年1月末に息子を出産し、産後2カ月で保育園の「保活」をし、4月から入園することができました。すぐに職場復帰したのは、0歳の頃から準備をしないと入園できないからです。入園できたものの、家からは遠く、2カ月で疲弊してしまい、保育の問題に関心をもちました。3歳以降の保育園・幼稚園の利用は無償化されましたが、一部の子供が取り残されている状況を改善したいと、この研究を行いました。受賞させていただき、本当にありがとうございました。



受賞記念講演：上田 豊氏



受賞記念講演：可知 悠子氏

◆選考委員長講評 (抜粋)



門脇 孝氏

東京大学大学院医学系研究科
糖尿病・代謝内科 特任教授
帝京大学医学部病態栄養学講座 常勤客員教授

本年度は、将来の予防医療というテーマに先見的に着手したものを重点課題といたしました。37件という過去最多の応募があり、これまでに劣らず、本年度も優れた研究課題が多かったというのが選考委員一同の強い印象でした。

評価方法としては、①公衆衛生への貢献度、②公衆衛生向上を図る創造性、③予防医療の実践、④これからの人材育成という四つの観点から多角的に評価し、選考を行いました。

まず若手の研究者を奨励する山田和江賞は、満場一致で北里大学医学部公衆衛生学講師の可知悠子先生が選出されました。研究課題は「保育園・幼稚園に通っていない子どもの社会・経済・健康面の特徴」です。全国データを用いて、日本の未就園の要因を明らかにした初めての研究であり、児童虐待防止対策、幼児教育・保育の無償化政策にも貢献したことが大きく評価されました。また学術論文も、質・量とも大変優れており、このため、山田和江賞に誠にふさわしい研究者として選出させていただきました。

続いて遠山椿吉賞は、慎重に審議した結果、満場一致で大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学講師の上田豊先生が選出されました。研究課題は「本邦における子宮頸がん動向調査とHPVワクチン接種の効果の解析」です。上田先生は、本邦における子宮頸がんの動向を初めて実証的に明確に示し、若年女

性がさらされている子宮頸がんの問題点を明らかにされました。さらに社会問題化しているHPVワクチンの本邦における有効性を初めて明確に示され、このような議論に対する科学的な基盤となるデータを提供されました。

これらは今後の本邦における子宮頸がん対策の重要な基礎資料となり、国民の疾病予防による健康や生命の維持を通して、女性活躍社会の実現や少子化対策にもつながる極めて重要なものとして、選考委員会は満場一致で上田先生が授賞に最もふさわしい研究者であるとの結論に至りました。



高橋利之副理事長による開式の辞



選考委員長の門脇 孝先生による講評

◆来賓祝辞 (抜粋)



祖父江 友孝氏

大阪大学大学院医学系研究科
社会医学講座環境医学 教授

私が国立がんセンターから、7年前に大阪に帰り、大学で研究班をすることになった際、上田先生にHPVワクチンの有効性の部分を担当していただきました。上田先生は、全国の市町村を相手にフィールドを拡大するというアクティビティを精力的に行われて、今ようやくデータが集まりつつあります。

上田先生は、臨床の先生にありがちな病院の枠というものが全くない先生です。臨床の先生がその壁を乗り越えて、市町村の方々と交渉し、データを提供いただくのは非常に苦勞が多いと思いますが、そこを全く躊躇しない、公衆衛生マインドを強く持った先生だと思います。

現在、HPVワクチンに関して、日本は必ずしもいい状態にはない時にこうした賞をいただけるのは、今の状況を何とか打破していく後押しになると思います。1日も早くグローバルな状態に戻せるよう、ますます活躍を期待しております。本日はおめでとうございます。



堤 明純氏

北里大学医学部公衆衛生学 教授

可知先生の専門は、社会心理・経済、格差などを扱う社会医学という分野で、その中でも子供の健康影響を扱っています。特に親の経済的な状況と子供の健康の関係にメスを当て、広く研究をしています。今回の研究は公衆衛生学会などでも政策提言をしています。

わが国は平等な国と言われていましたが、だんだん格差の問題が大きくなっております。それが経済だけでなく健康にも影響している中で、これからの世代を背負う子供の健康問題を扱うことは、今回の山田和江賞の趣旨に沿ったものであり、非常に喜んでいます。若い研究者を育てるという意味で、本人も大変励みになったと思います。

健やかに子供たちが過ごしていく、育っていく、そうした社会を作るために、頑張って研究をしていただきたいと願っています。本当におめでとうございます。

*令和元年度「健康予防医療賞」授賞式についての詳細は、当財団ホームページをご覧ください。

地域貢献 (次世代の育成)

次世代を担うこどもたちへ

2006(平成18)年より始めた夏休み「こども研究者体験」セミナーも、14年目を迎えました。創業者遠山椿吉の生誕地、山形県山辺町と120周年を機に交流を始めて7年目となり、意義深い交流が育まれています。サイエンスを学ぶ楽しさ、食品の安全性や健康に関心を持つきっかけとして、次世代を対象とした衛生思想の普及啓発に努めています。

令和元年度夏休み「こども研究者体験」セミナー

白衣を着て、手についた菌や食べ物に含まれる色を観察しよう!

- ◆Aコース：7月25日(木)～7月26日(金)
- ◆Bコース：7月29日(月)～7月30日(火)
- ◆会場：豊海研究所4F研修室
- ◆参加人数：32名
- ◆講師・協力：理化学検査部、微生物検査部

- ◎後援：東京都中央区教育委員会
- ◎協力：山形県山辺町教育委員会
- ◎参加校：中央区立小学校11校、山辺町立山辺小学校



A日程の参加者：山辺小のみんなとも仲良く交流。



B日程の参加者：修了証をもらって、みんなでパチリ。

本年度は四つの研究を行いました。

■研究1：「手についている菌を見つけてみよう!」

手に付着している菌を調べるために、各自、手を洗う前と洗った後の手を培地につけ、それぞれ孵卵器で24時間培養(35℃)し、菌数の違いを調査しました。

■研究2：「食べ物に含まれる色(着色料)を調べよう!」

着色料をテーマにペーパークロマトグラフィーという分析法で、チョコレートから色素を抽出し、合成着色料について学びました。

■研究3：「食品から取り出した色素で酸性・アルカリ性を調べよう!」

紫キャベツから取り出した天然色素「紫色」と、カレーに使われる香辛料のターメリックから取り出した「黄色」を利用してpH試験紙を作り、身の回りの食品などが酸性かアルカリ性かを調べる実験にも取り組みました。

■研究4：「手の汚れを数値にしてみよう!」

手を洗う前と後では、ATPふき取り検査[汚れ(=ATP量)を高感度に測定する検査]で、数値がどれだけ違うかを自分の手で実験して調べました。

参加者の感想より

「手に付いている菌を増やして、顕微鏡で見るのが楽しかった。」
 「紫キャベツとターメリックの色素で作った試験紙を洗剤に付けた時、すぐに青緑色になり驚いた。」
 「手に付いた菌は洗わないと落ちないと知り、次からは石鹸も付けて洗いたいと思った。」
 「食べ物にはたくさんの着色料がついていると知り、身近な食べ物で見てみたいと思った。」



培地の感触は初体験です。



顕微鏡で熱心に菌を観察。



着色料の抽出にチャレンジ。



毛細管でのスポットに2人の表情は真剣そのもの



pH試験紙、うまく作れるかな?



酸性?アルカリ性?結果が楽しみです。



綿棒で手をふきとって、汚れを計測します。



ちゃんと手を洗ったのに...測定器は正直です。

■中学生の校外学習に協力

- ◆1回目：2019（令和元）年11月1日（金）
- ◆2回目：2020（令和2）年1月24日（金）
- ◆会 場：こころとからだの元氣プラザ
- ◆参加人数：5名
- ◆協 力：健康推進管理室
- ◆訪問校：千代田区立九段中等教育学校

千代田区立九段中等教育学校では、開校時より、地域に根差す教育の視点から千代田区および近隣地区の企業、団体への企業訪問が行われています。東京顕微鏡院・元氣プラザでは、交互に生徒の皆さんを受け入れてきました。受け入れから13回目となる今年は、第1学年総合的な学習の時間として2回にわたり、5名の1年生が元氣プラザを訪れました。



九段中等教育学校の皆さんとともに

1回目の訪問では、健康推進管理室による講義で日本人の健康に関するデータや、企業にとっての健康経営のメリットなどを学びました。スマートミール認証のお弁当や、社内掲示された健康管理を啓発するポスターの紹介、休憩室に設置してある健康器具の体験など、工夫を凝らした講義に皆さんは熱心に聞き入っていました。講義の後は、臨床検査部と検査部の協力のもと、細胞診および上部消化管検査の現場を見学しました。顕微鏡をのぞいて子宮頸がんの細胞を観察したり、大きな検査機器に驚いたり、初めてづくしの体験は、皆さんには貴重なものとなりました。そして「両親の健康のために大切と考える健康課題について分析し解決策を考える」と「健康課題解決に向けた啓発ポスター作成」という課題が出され、帰校後、調査やアンケートに取組んでいただきました。

2回目の訪問は、課題に取組んだ成果として「飲酒量を記録し、減量を目指す」「適切な睡眠量の確保のため、家族間で生活パターンを把握し配慮する」「バランスの良い食事にするためレシピサイトを利用したり、サプリメントによる栄養補給を行う」などの解決策が打ち出されました。

皆さんは今回の課題を通じて、より良い生活習慣と、それらを自分自身で考えて実践することの大切さを学ぶことができたようです。



「健康経営とは？」スライドで体系的に説明。



実物のスマートミール弁当に「おいしそう！」の声が。



社内掲示のポスターに興味津々。



休憩室の健康器具でストレッチに挑戦。



顕微鏡で初めて見る「ヒトの細胞」に大興奮。



バリウムの粘度の高さと重さにびっくり。



フリップを使い、堂々とした発表でした。



みんなで考えて作った啓発ポスター。

普及啓発 (健康セミナー)

働き盛りからの予防医療の普及啓発

1994 (平成6) 年より「働く人の健康増進セミナー」を7回開催、「働く人の健康教育講座」を15回開催するほかシンポジウムも多数開催してきました。
2008 (平成20) 年から『健康日本21』*に基づく健康セミナーシリーズを展開し、本年度22回目を開催。平成30年度より寺本民生先生を座長とした、認知症を考えるセミナーシリーズを3年計画で開催しています。

*21世紀における国民健康づくり運動

健康に関するセミナー

超高齢化にともなって認知症となる人は今後も増加が続けると予測され、厚生労働省のデータによると、2025年には700万人を超えるとの推計値が発表されており、その対策はわが国の公衆衛生上重要な課題です。シリーズ「認知症ー超高齢社会を見据えて、今から始める予防策」の第2回は、認知症予防対策の一環として、糖尿病や生活習慣病と認知症の関連性について取り上げました。



◆シリーズ「認知症ー超高齢社会を見据えて、今から始める予防策」第2回

「認知症と糖尿病・メタボ

～人生100年時代、あなたは大丈夫?～」(参加者数464名)

学校、企業・自治体等の健康管理担当者、管理栄養士等の皆さまに役立つ実践セミナー

*中央労働災害防止協会のTHPLレベルアップ研修会に認定

日時:2019(令和元)年10月2日(水)14:00～16:30

会場:有楽町朝日ホール

後援:厚生労働省、東京都、健康日本21推進全国連絡協議会、
日本医師会、東京都医師会

座長:寺本民生(帝京大学臨床研究センターセンター長、
(医社)こころとからだの元氣プラザ理事)

主催者挨拶:中村 哲也

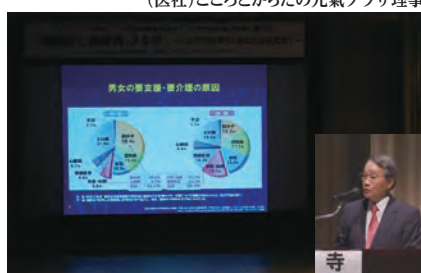
((医社)こころとからだの元氣プラザ
統括所長)



「認知症予防のために我々は何ができるのかを考えていきたいと思います。ご来場の皆様もご自身やご家族のために本セミナーを役立てていただければ幸いです」

■プロローグ「人生100年時代における健康長寿の構築にむけて」

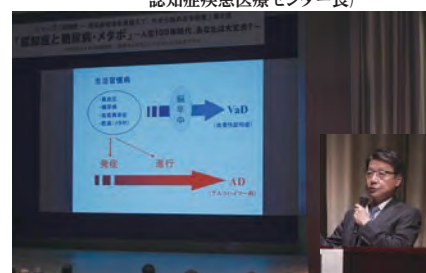
寺本 民生先生(帝京大学臨床研究センターセンター長
(医社)こころとからだの元氣プラザ理事)



認知症は高齢者が要介護となる原因の第1位であり、日本人の健康寿命を最も損なう疾患であること、世代や性別によって健康管理の課題が異なることも指摘されました。

■講演「糖尿病と認知症ーその危険な関係を知るー」

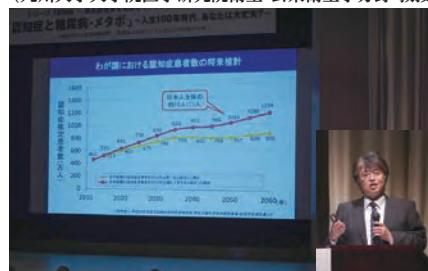
羽生 春夫先生(東京医科大学高齢総合医学分野(高齢診療科)主任教授
認知症疾患医療センター長)



糖尿病と認知症は強くリンクしており、血糖値が高いほど発症リスクが上昇すること、予防には血糖値コントロールや活動的な日常生活、運動が重要であると述べられました。

■講演「コホート研究からみた認知症予防」

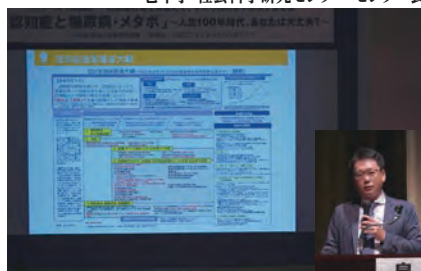
二宮 利治先生
(九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野 教授)



福岡県久山町の地域高齢住民の疫学調査では、糖尿病予防と身体活動に加え、バランスの良い食習慣、健康な歯の維持、適度な睡眠が認知症予防に有効であるとわかりました。

■講演「生活習慣と認知症予防の関係」

島田 裕之先生(国立長寿医療研究センター
老年学・社会科学研究センター センター長)



認知症予防に効果的な運動と認知訓練を組み合わせたプログラム「コグニサイズ」の紹介のほか、実行可能な予防対策を複数組み合わせることが大切とお話しされました。

■パネルディスカッション

座長:寺本 民生先生
パネリスト:羽生 春夫先生、二宮 利治先生
島田 裕之先生 (ご登壇順)



認知症と食生活、睡眠との関連、軽度認知障害の早期発見について参加者の事前の質問にお答えいただいたほか、高齢者や認知症患者を孤立させない社会づくりの重要性も議論されました。

普及啓発 (食と環境のセミナー)

身近な食や環境の問題について

当法人では、企業の食品衛生担当者や環境衛生担当者対象のセミナーを1976(昭和51)年より40年以上にわたって開催し、最先端の食や環境の情報提供に努めてきましたが、本年度は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。食の安全に関する学会の支援や、WHOのアクションプランに呼応した薬剤耐性調査は継続して行っています。

■食と環境のセミナー

◆HACCP制度化に向けての対応 ～外食事業者を中心に～ (中止)

第93回食と環境のセミナー

日時: 令和2年3月17日(火) 13時30分～16時05分

会場: 中央区立月島社会教育会館 4階ホール

本セミナーは以下の内容で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、中止とさせていただきます。

■講演: 今後飲食事業者が知っておくべき事、やるべき事 ① (行政の見地から)

小山 裕士先生 千葉県健康福祉部 衛生指導課 課長 ※肩書は当時

■講演: 今後飲食事業者が知っておくべき事、やるべき事 ② (事業者の見地から)

山下 安信先生 一般社団法人日本フードサービス協会 安全安心委員会 HACCP 作業チームリーダー、日本マクドナルド株式会社 技術顧問

■食品従事者から検出されたサルモネラ属菌の血清型と薬剤耐性 (2017年との比較検討)

1980年代頃から抗菌薬の効かない薬剤耐性菌が増加し、感染症の治療に大きな問題が生じています。このため2015年にWHOは薬剤対策のアクションプランを提言し、世界に向けて調査や制御対策を要請しました。

当法人の臨床微生物検査部では、2017年から食品従事者の健康管理として、腸内細菌検査から検出されたサルモネラ属菌の血清型ごとの薬剤耐性頻度の検討を行ってきました。今回の調査では、2018年に分離されたサルモネラ属菌228菌株を対象とし、2017年に実施した成績と比較検討を行いました。

1. サルモネラ属菌の血清型別

供試した228菌株は51の血清型に型別されました。主な血清型は表に示すごとく52菌株(22.8%)が血清型Schwarzengrundに型別されました。ついでThompson 17菌株(7.5%)、Manhattanが11菌株(4.8%)、Newportが11菌株(4.8%)と続きました。昨年度の調査に引き続きSchwarzengrundが最も多い血清型となりました。

2. サルモネラ属菌の薬剤耐性

今回の調査ではアンピシリン、セファゾリン、セフトキシム、ストレプトマイシン、ゲンタマイシン、カナマイシン、テトラサイクリン、クロラムフェニコール、コリスチン、ナリジクス酸、シプロフロキサシン、スルファメトキサゾール+トリメトプリム合剤の12薬剤に対する感受性試験を実施しました。供試した228菌株のうち144菌株(63.2%)が1剤から7剤の薬剤の耐性株であり、昨年度と同様の成績でした。最も高頻度に型別されたSchwarzengrundは、供試菌株がすべて耐性株であり、3薬剤以上の多剤耐性株も42株(80.8%)ありました。

まとめ

2018年に分離されたサルモネラ属菌の血清型は、円グラフに示すごとく2017年に分離された血清型とほぼ同じでした。また、分離菌株の耐性率は53.5%から63.2%と増加傾向が認められ、3薬剤以上の多剤耐性率においても25.5%から24.6%と2年継続して高く推移したことは注目すべき成績でした。今後ともサルモネラの血清型と薬剤耐性の動向を継続的に調査し、薬剤耐性モニタリング事業として社会に貢献する資料を提供していきたいと思えます。

学会等支援

日本食品微生物学会への支援

当法人は、1989(平成元)年4月より30年にわたり学会事務局として学会活動を支援しています。同学会は食品の微生物に関する学術研究の推進、並びにその成果の普及を図り、食品の安全および機能の向上に寄与することを目的とした学会です。企業・行政・研究機関のいわゆる産官学で構成されています。



日本カンピロバクター研究会への支援

当法人は、2011(平成23)年度から研究会事務局として、細菌性下痢症の最も主要な病原菌である本菌の研究者や食中毒・感染症防止に取り組む方々の学際的な研究を支援しています。



NPO法人食の安全を確保するための微生物検査協議会への支援

同協議会は2003(平成15)年発足後、2011(平成23)年度にNPO法人化し、食品の安全確保の課題に取り組んでいます。

ATP・迅速検査研究会への支援

同研究会は食品衛生における迅速検査技術向上を目的として1999(平成11)年に発足し、20年にわたり活動しています。

円グラフ. 2017年と2018年に分離されたサルモネラ属菌の血清型別の比較

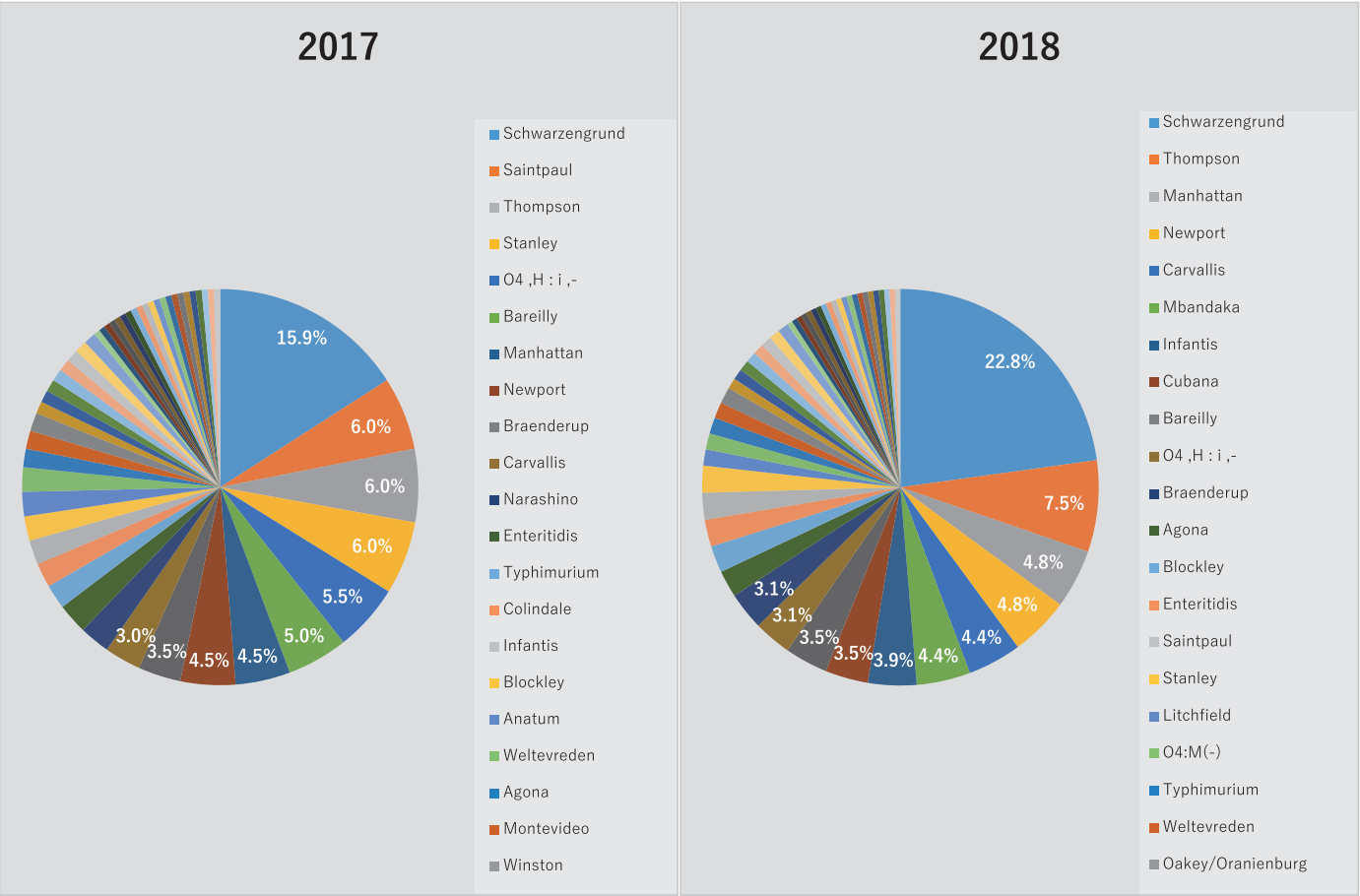


表. 2018年に分離されたサルモネラ属菌の血清型別および薬剤耐性結果

	血清型名	菌株数	1剤以上耐性合計		1剤のみ耐性		2剤のみ耐性		3剤以上耐性	
			菌株数	(%)	菌株数	(%)	菌株数	(%)	菌株数	(%)
1	Schwarzengrund	52	52	100.0%	3	5.8%	7	13.5%	42	80.8%
2	Thompson	17	13	76.5%	13	76.5%	-	-	-	-
3	Manhattan	11	11	100.0%	-	-	8	72.7%	3	27.3%
3	Newport	11	1	9.1%	1	9.1%	-	-	-	-
5	Corvallis	10	-	-	-	-	-	-	-	-
5	Mbandaka	10	4	40.0%	4	40.0%	-	-	-	-
7	Infantis	9	7	77.8%	6	66.7%	1	11.1%	-	-
8	Cubana	8	1	12.5%	1	12.5%	-	-	-	-
8	Bareilly	8	3	37.5%	3	37.5%	-	-	-	-
10	O4 , H : i , -	7	5	71.4%	1	14.3%	-	-	4	57.1%
10	Braenderup	7	5	71.4%	4	57.1%	1	14.3%	-	-
12	Agona	5	4	80.0%	1	20.0%	3	60.0%	-	-
12	Blockley	5	5	100.0%	-	-	-	-	5	100.0%
12	Enteritidis	5	3	60.0%	3	60.0%	-	-	-	-
12	Saintpaul	5	2	40.0%	2	40.0%	-	-	-	-
12	Stanley	5	2	40.0%	2	40.0%	-	-	-	-
17	Litchfield	3	3	100.0%	3	100.0%	-	-	-	-
17	O4:M(-)	3	1	33.3%	1	33.3%	-	-	-	-
17	Typhimurium	3	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%	-	-
17	Weltevreden	3	-	-	-	-	-	-	-	-
17	Oakey/Oranienburg	3	1	33.3%	1	33.3%	-	-	-	-
	その他の血清型 (30型)	38	19	50.0%	16	42.1%	1	2.6%	2	5.3%
	合計	228	144	63.2%	66	28.9%	22	9.6%	56	24.6%

出版関連

健康情報の普及および啓発、活動の情報開示

予防医療の普及啓発のため、講演内容を2008（平成20）年度から継続して小冊子で発刊しています。本年度は健康セミナーの講演録を小冊子として発行したほか、ノロウイルス食中毒予防の小冊子を改訂し発行しました。
遠山椿吉賞記念講演録、公益事業レポートは、当財団ホームページでもご覧いただけます。

『超高齢社会を見据えて、今から始める予防策 認知症と糖尿病・メタボ』

2018（平成30）年度より、新たに「認知症－超高齢社会を見据えて、今から始める予防策」というテーマで、3回シリーズのセミナーを企画しました。本書は、2019（令和元）年10月に開催された第2回「認知症と糖尿病・メタボ～人生100年時代、あなたは大丈夫？～」の講演録になります。

※セミナーの様式についてはP6を参照ください。



新刊

発行日：2020（令和2）年3月
サイズ：A5判
ページ：56ページ
発行部数：1000部 頒価：300円

※当財団ホームページよりご購入いただけます。

『食品と環境』衛生講座シリーズ① ノロウイルス食中毒 予防と対策 令和元年改訂版

ノロウイルスは食品や飲料水を媒介とした食中毒と、ヒトからヒトへの感染症の二つのルートがあり、これらの感染経路を踏まえた対策が重要となります。

イラストを多用したわかりやすい説明と、日常の点検や発症時にすぐ使えるチェック表、過去の発生事例集など、実践的な内容で好評の本書は、平成23年の初版から数えて3回目の改訂となります。今回の改訂では、最新のデータや行政の動き等を追加し、より充実した内容となりました。



新刊

発行日：2019（令和元）年12月
サイズ：A5判
ページ：36ページ
発行部数：1,000部 頒価：200円
監修：伊藤 武 獣医学博士
当財団食と環境の科学センター名譽所長
元東京都立衛生研究所微生物部長

※当財団ホームページよりご購入いただけます。

遠山椿吉賞受賞記念講演 講演録

両法人の「事業年報」を発刊し、公益事業として遠山椿吉賞受賞記念講演の講演録を掲載しました。



新刊

発行日：2019（令和元）年8月31日
サイズなど：A4判（講演録：26ページ）
CD-ROM付属
発行部数：1,000部
配布先：契約先、関係行政機関、関係研究機関、関係団体など

第6回 食と環境の科学賞

「水環境における薬剤耐性菌・耐性遺伝子の公衆衛生学的研究」
◎受賞者 鈴木 聡 氏（愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授）

第6回 食と環境の科学賞 山田和江賞

「食品からのエピジェネティック変異原性の検出：酵母凝集反応を指標とした新規毒性試験法の開発」
◎受賞者 杉山 圭一 氏（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 変異遺伝部 室長）

※当財団ホームページでも公開しています。

公益事業レポート2018

公益事業の年次ディスクロージャー誌として発刊しました。皆様に幅広くお配りし、公益事業の情報開示を行っています。



新刊

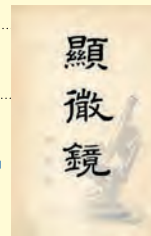
発行日：2019（令和元）年5月
サイズなど：A4判、16ページ
発行部数：2,000部

※当財団ホームページでも公開しています。

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの歴史と公益事業

～三つの世紀にわたる歩み

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き	【戦前】	普及啓発活動、出版、その他公益活動など
	1800年～	
遠山椿吉、佐藤保、川上元治郎が協同して、京橋区にあった成医会の一室を借り、「東京顕微鏡検査所」を創立 検査業務開始	1891(明治24)年	『結核菌簡便検査法』出版 『顕微鏡』第1号(1894～1944年) ※後に「東京顕微鏡学会雑誌」に改称し、1944(昭和19)年戦時統制令で休刊するまで50年間発行
病原的細菌標本の頒布を開始し、本所考案の喀痰沈殿器を製造販売		
細菌検査の実務指導を行う講習科を開講 名称を東京顕微鏡院と改称	1892(明治25)年	
種痘術講習科を新設。培養基の発売開始		
	1894(明治27)年	機関誌「顕微鏡」第1号発行 啓蒙用幻灯映画製作 「顕微鏡の祖」マルピギー200年記念式典、本院にて挙行
飲料水の検査を開始	1895(明治28)年	コレラ講習会を開催
母乳検査を開始	1896(明治29)年	回帰熱講習会を開催
事業拡大にともない、神田区小川町に移転	1899(明治32)年	ペスト講習会を開催
	1900年～	
遠山椿吉院長、初代東京市衛生試験所長に任ぜられる ペスト試験室を新設	1903(明治36)年	来日したコッホ博士を囲む生花の会(於帝國ホテル) 前列左からロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士、後列左から2人目が遠山椿吉
遠山椿吉院長、医学博士の学位を授与される		
保健部を新設。広く世間の人びとに対し、健康診査(健康診断)と衛生上の協議(衛生相談)を開始		
遠山椿吉院長、東京市参事会より独ベルリン市開催万国衛生および民勢学会参列、欧州各都市衛生設備実況調査を命ぜられる	1907(明治40)年	
同時に、内務省より欧米都市における汚物掃除の実況調査を囑託(翌年帰国)		
遠山椿吉院長、内閣より医術開業試験委員を命ぜられる	1908(明治41)年	遠山椿吉院長、来日したロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士を招待し、生花の会を開催
	1914(大正3)年	「結核予防善悪鑑」発行、「結核征伐の歌」を發表
(院長、長年来の研究による)脚気治療薬 うりひんを製品化	1915(大正4)年	
創立30周年記念祝賀会	1922(大正11)年	「遠山博士脚気病原因之研究」発行
9月1日関東大震災により、院舎およびその設備をすべて焼失		
9月6日麻布区富士見町に仮院舎を建設し、10月1日一般業務を再開	1923(大正12)年	
内務大臣より財団法人の設立許可を受ける	1927(昭和2)年	「人生の意義と道德の淵源」出版。天皇に献上
遠山椿吉、肺がんのため遠逝、享年71	1928(昭和3)年	
レントゲン深部治療開始	1929(昭和4)年	脚気の無料診療を開始
創立50周年記念式典(1940年)	1930(昭和5)年	第1回脚気無料巡回診療実施(財団法人東京顕微鏡院社会部)
	1935(昭和10)年	結核予防週間および健康週間に参加し、無料喀痰検査などを実施
戦災により、以後10年にわたり事業中断	1945(昭和20)年	
	【戦後】	
遠山正路院長より事業を継承	1954(昭和29)年	
診療所を開設、細菌検査所を再開	1955(昭和30)年	



東京顕微鏡院講習科第1回卒業式(1892年)



来日したコッホ博士を囲む生花の会(於帝國ホテル)
前列左からロベルト・コッホ博士、北里柴三郎博士、後列左から2人目が遠山椿吉



「結核征伐の歌」



うりひん広告



震災後に復興した東京顕微鏡院本院(1925年竣工)同年、病理組織検査開始、レントゲン科新設



歴代代表者	(在任期間)	歴代代表者	(在任期間)	歴代代表者	(在任期間)
創立者(院長) 遠山 椿吉	1891~1928年	第4代(院長) 高橋 悌三	1957~1967年	第7代(理事長) 下村 満子	1995~2007年
第2代(院長) 遠山 正路	1929~1954年	第5代(理事長) 山田 匡蔵	1967~1989年	現理事長	山田 匡通 2007年~
第3代(院長) 細谷 省吾	1955~1957年	第6代(理事長) 山田 和江	1989~1995年		

東京顕微鏡院、こころとからだの元氣プラザの主な動き		普及啓発活動、出版、その他公益活動など	
職域を対象とした健康診断業務を開始。外来診療開始			
臨床検査は病院からの受託のほか、学校保健法による 集団検査を拡大	1967(昭和42)年		
東京都の委託を受け、小中学生の 大気汚染の影響調査を実施(5年継続)	1972(昭和47)年		
建替えによる新院舎完成。	1974(昭和49)年		
人間ドック事業を開始。付属臨床検査所を登録			
食品衛生法に基づく厚生大臣指定検査機関の指定を受け、 食品衛生検査所を開設	1975(昭和50)年		
がん検診(胃、子宮、乳房)開始。多摩分室を立川に開設	1976(昭和51)年		
	1978(昭和53)年	離島村民の健康管理を目的とした 「小笠原健康な村づくり事業」を開始 「小児ぜん息母親教室」、食品衛生セミナーなどを開催	
水道法に基づく厚生大臣指定検査機関の指定を受ける (簡易専用水道検査)	1979(昭和54)年		
立川衛生検査センターを開設	1986(昭和61)年	再興30周年記念シンポジウム「21世紀のいのちと生活」を開催	
付属第2臨床検査所を登録	1987(昭和62)年	学術普及誌「健康と環境」創刊(~2000年)	
	1991(平成3)年	創立100周年記念シンポジウム「21世紀への生命潮流」を開催	
	1992(平成4)年	シンポジウム「ベイブリッジフォーラム '92-21世紀への対がん戦略」を開催 平成4年度より事業年報の発行開始	
食品検査施設を移転し、日本橋研究所を開設 (2001、2002、2005年に順次拡大)	1996(平成8)年		
立川事務所を開設、食品等分析調査研究所を合併 (1998年、食と環境の科学センター検査第3部に改組)	1997(平成9)年	シンポジウム「新時代の高血圧管理」 「職場と住宅環境を考える」などを開催	
会員制人間ドックを開始	1998(平成10)年	シンポジウム「新しい時代の糖尿病対策」 「はたらく女性とメンタルヘルス」などを開催	
	2000年~		
食と環境の科学センター日本橋研究所に検査第3部を 移転し、拡大		創立110周年記念日米メディカルシンポジウム 「21世紀の女性と性(ジェンダー)と健康」を開催	
トータルヘルスセンターBe-Well、 女性のための生涯医療センターViViを開設	2001(平成13)年		
こころとからだの元氣プラザ (2003年~)	2002(平成14)年	創立110周年記念シンポジウム「食の安全と健康を考える」 を開催	
医療部門を統合・拡充し、 医療法人社団こころとからだの元氣プラザを 設立	2003(平成15)年	女性のための生涯医療センターViVi 開設1周年記念 シンポジウム「アダムとイブの医療革命」を開催	
水道法改正により、厚生労働大臣指定検査機関から、登録検査 機関への変更の認可を受ける	2004(平成16)年		
食品衛生法改正により、厚生労働大臣指定検査機関から、登録 検査機関への変更の認可を受ける	2005(平成17)年	東京顕微鏡院創立115年、こころとからだの元氣プラザ創立3年 記念シンポジウム「いのちとは何か、生きるとは何か」を開催	
	2007(平成19)年	メディカル・シンポジウム「医療の未来、日本の未来 -なぜ日本では高度先端医療が遅れているのか?」を開催	
立川研究所を一ヶ所に統合拡大		遠山椿吉生誕150年、没後80年を記念して遠山椿吉賞創設	
こころとからだの元氣プラザ(飯田橋)と 市ヶ谷本院の施設再配置	2008(平成20)年		
こころとからだの元氣プラザ(飯田橋) 外来診療と女性のための生涯医療センターViViを統合		「遠山椿吉記念 第1回 食と環境の科学賞」を西尾治氏、 同奨励賞を川崎晋氏に授与	
	2009(平成21)年	遠山椿吉生誕150年記念シンポジウム 「東京の水の源流を探る ~豊かな東京の水利用を支える 日本の水、世界の水~」を開催	

東京顕微鏡院、こことからだの元氣プラザの主な動き		普及啓発活動、出版、その他公益活動など
こことからだの元氣プラザ、アジュール竹芝総合健診センターの運営を受託 臨床検査部がこことからだの元氣プラザの組織に移行 三菱化学メディエンスと共同運営で「元氣プラザ臨床検査センター」をスタート 3月11日 東日本大震災により、創立120周年記念式典・祝賀会、創立120周年記念顧客イベント中止 4月1日 創立120周年 創立120周年記念年頭式 豊海センタービル竣工 日本橋研究所が施設拡充に伴い、豊海研究所に移転 4月1日に財団法人東京顕微鏡院は一般財団法人に移行、「一般財団法人 東京顕微鏡院」と名称変更 [ISO/IEC 17025:2005]を認定取得(放射能試験) 登録衛生検査所「元氣プラザ細胞病理コアテクノロジー」がスタート 元氣プラザビル3～5階の人間ドック・健診フロアを男女別フロアに改装 [ISO/IEC 17025:2005]を認定取得(食品試験：理化学、微生物) 「元氣プラザ臨床検査センター」機能を元氣プラザビル内に移設拡充し、院内施設化。これに伴い、衛生検査所登録を抹消	2010(平成22)年 2011(平成23)年 2012(平成24)年 2013(平成25)年 2014(平成26)年 2015(平成27)年 2016(平成28)年 2017(平成29)年 2018(平成30)年 2019(平成31/令和元年) 2020(令和2)年	「遠山椿吉記念 第1回 健康予防医療賞」を鈴木隆雄氏、同特別賞を中村雅一氏に授与 「遠山椿吉記念 第2回 食と環境の科学賞」を塩見一雄氏、同特別賞を小泉昭夫氏に授与 創立120周年記念シンポジウム「アルツハイマー型認知症の治療・予防戦略—研究・治療・ケアの最前線から」を開催 「遠山椿吉記念 第2回 健康予防医療賞」を白木正孝氏、同特別記念賞を久山町研究グループ代表 清原裕氏に授与 「遠山椿吉記念 第3回 食と環境の科学賞」を小西良子氏、同功労賞を石川哲氏に授与 「創立120周年記念誌」を刊行 「遠山椿吉記念 第3回 健康予防医療賞」を岡山明氏、同特別賞を伊藤千賀子氏、同奨励賞を西浦博氏に授与 「遠山椿吉記念 第4回 食と環境の科学賞」を新田裕史氏、同奨励賞を山口進康氏に授与 故山田和江名誉理事長・医師の50余年の功績を記念して、遠山椿吉賞50歳未満の応募者を顕彰する「山田和江賞」を創設 「遠山椿吉記念 第4回 健康予防医療賞」を野田光彦氏、同「山田和江賞」を石和田稔彦氏に授与 「遠山椿吉記念 第5回 食と環境の科学賞」を加藤昌志氏、同「山田和江賞」を原田浩二氏に授与 DVD教材「これで納得! HACCPシステム導入のための7原則」を刊行 「遠山椿吉記念 第5回 健康予防医療賞」を辻一郎氏、同「山田和江賞」を富岡公子氏に授与 eラーニング「はじめての食品表示」を実施 「遠山椿吉記念 第6回 食と環境の科学賞」を鈴木聡氏、同「山田和江賞」を杉山圭一氏に授与 「遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞」を上田豊氏、同「山田和江賞」を可知悠子氏に授与 「遠山椿吉記念 第6回 健康予防医療賞」(右:上田氏 左:可知氏)



DVD教材「これで納得! HACCPシステム導入のための7原則」



歴史写真ギャラリー

～東京顕微鏡院 創業時の姿～



明治29(1896)年、神田小川町の院舎



明治29(1896)年、院内実験室



明治29(1896)年、院内講堂



明治44(1911)年、創立20周年記念式典

Our Credo 私たちの公益事業

1. 創業精神に則り、人びとの健康と、食品の安全、生活環境衛生向上のため、両法人の事業を基盤に、世の中に貢献します。
2. 時代の先を見つめ、先駆的な視点から発信することに努めます。
3. 職員が参画意識をもてる仕組みを作り、組織の活性化に生かします。

<顕彰制度>

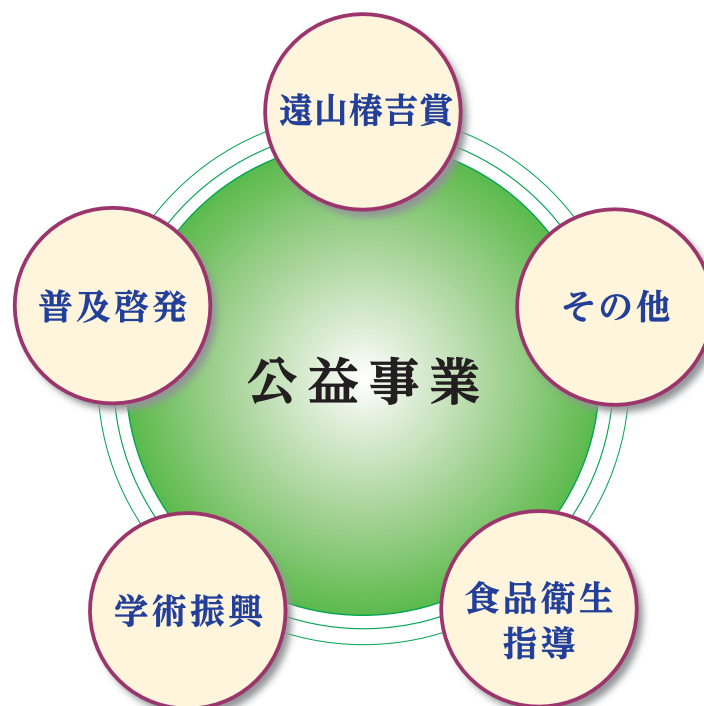
- *遠山椿吉記念 第7回 食と環境の科学賞 顕彰
(告知、応募論文募集、選考委員会開催、授賞式・記念講演・レセプション開催、講演録作成)
- *遠山椿吉記念 第7回 健康予防医療賞(令和3年度)準備

<セミナー>

- *健康セミナー
- *食と環境のセミナー

<出版等>

- *企画制作



<次世代育成>

- *夏休み「こども研究者体験」セミナー

<その他>

- *公益事業レポート
- *公益事業紹介DVD制作

2020(令和2)年度 公益事業計画

発行:

一般財団法人 東京顕微鏡院 公益事業室

〒102-8288 東京都千代田区九段南4-8-32 TEL.03-5210-6651 <https://www.kenko-kenbi.or.jp>

医療法人社団 ころとからだの元氣プラザ 広報室

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング TEL.03-5210-6897 <https://www.genkiplaza.or.jp>